

東京・サステナブル・ファイナンス・ウィーク 2022
みんなの金融セミナー

人生100年時代の
賢い資産形成術
～iDeCo・NISAの活用法～

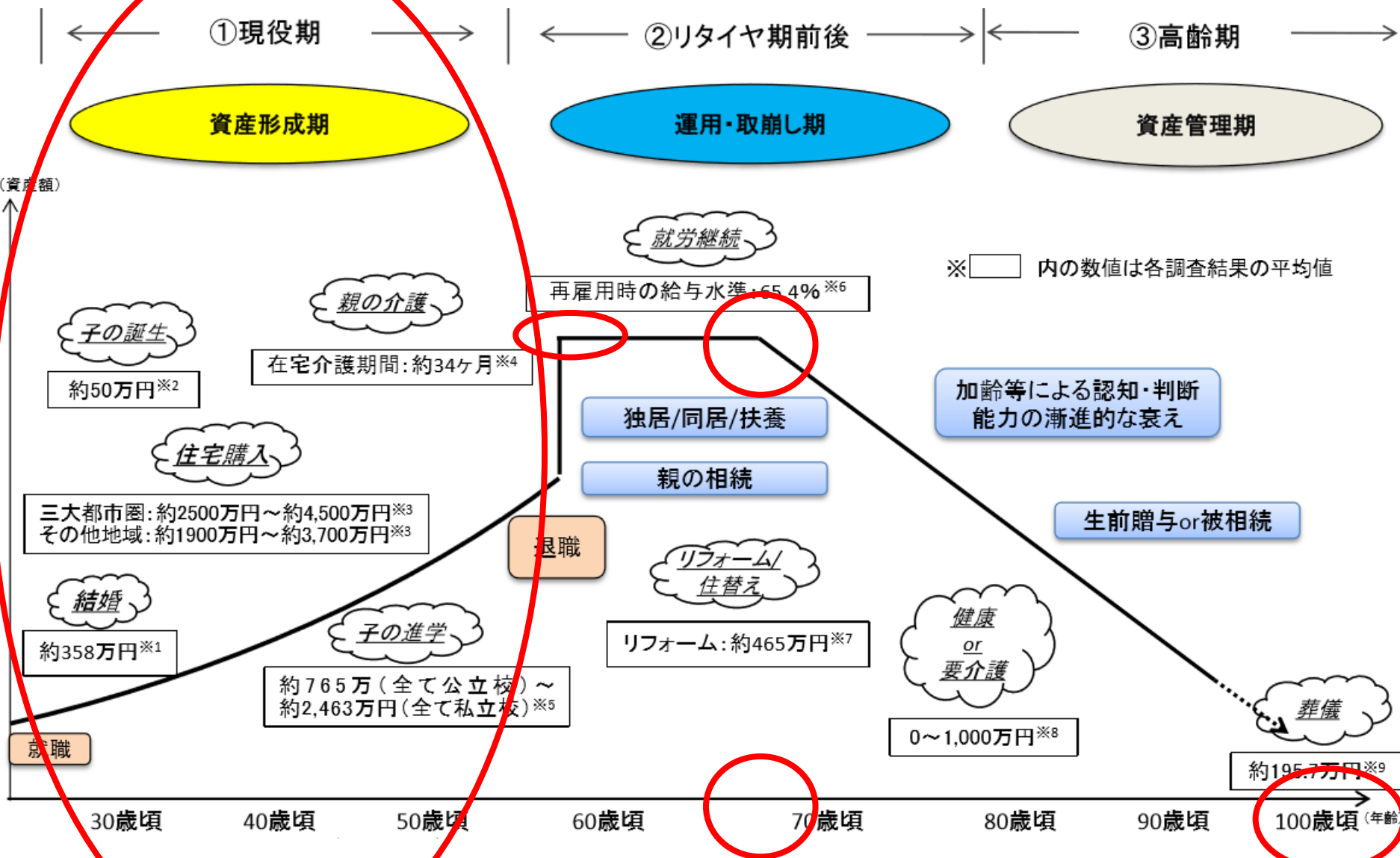


2022年10月8日

FP事務所アイプランニング代表
ファイナンシャルプランナー 飯村久美

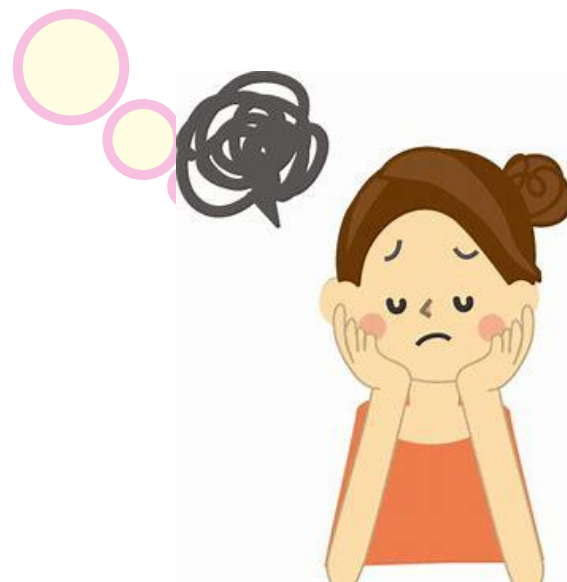
日頃、FPとしてこんな仕事をしています



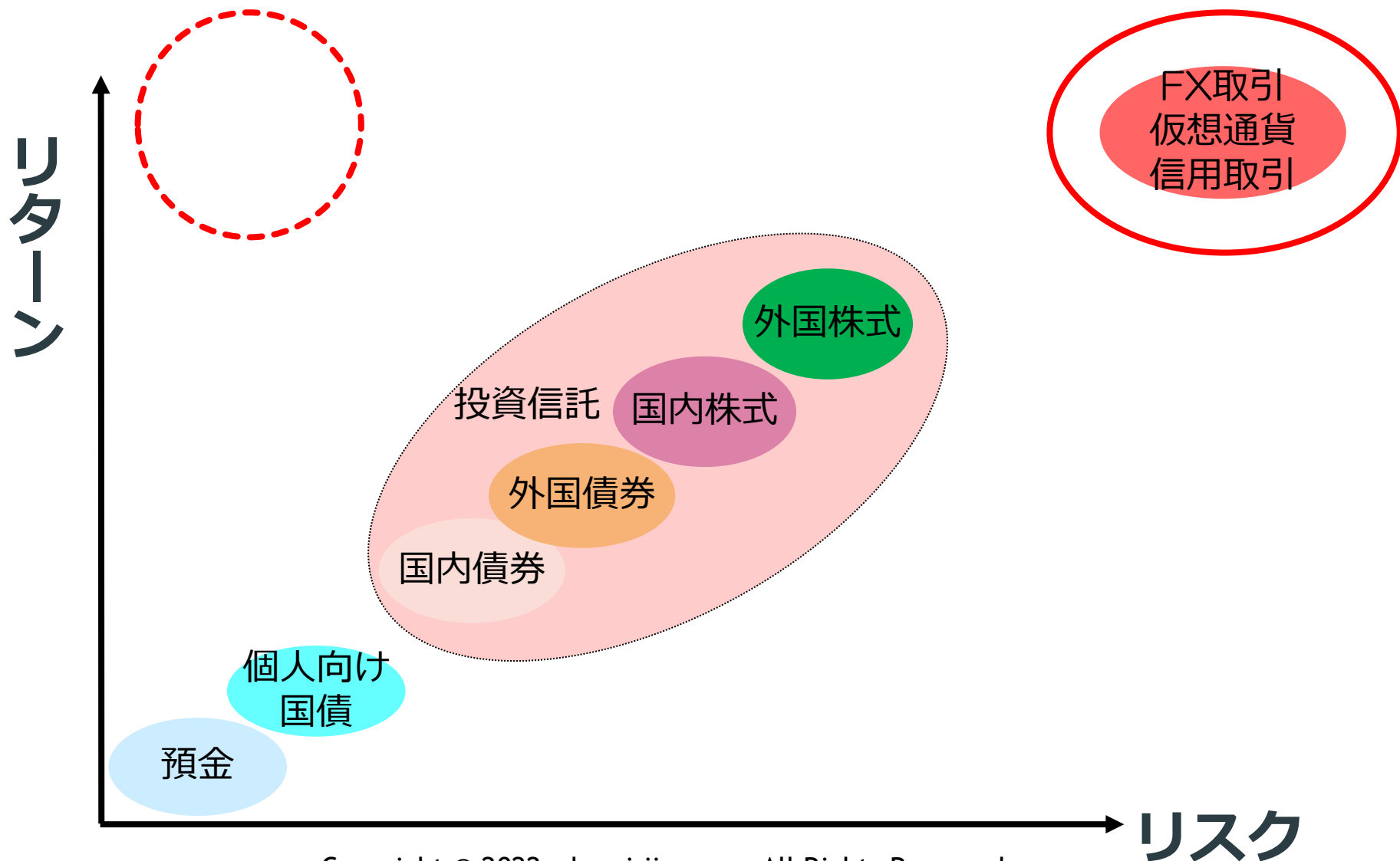


金融庁「高齢社会における資産形成・管理」報告書参考資料より

**「投資を始めたいけど
元本割れが怖い」**



金融商品とリスク・リターンの関係



資産運用のリスクを減らすコツ

1. 長期

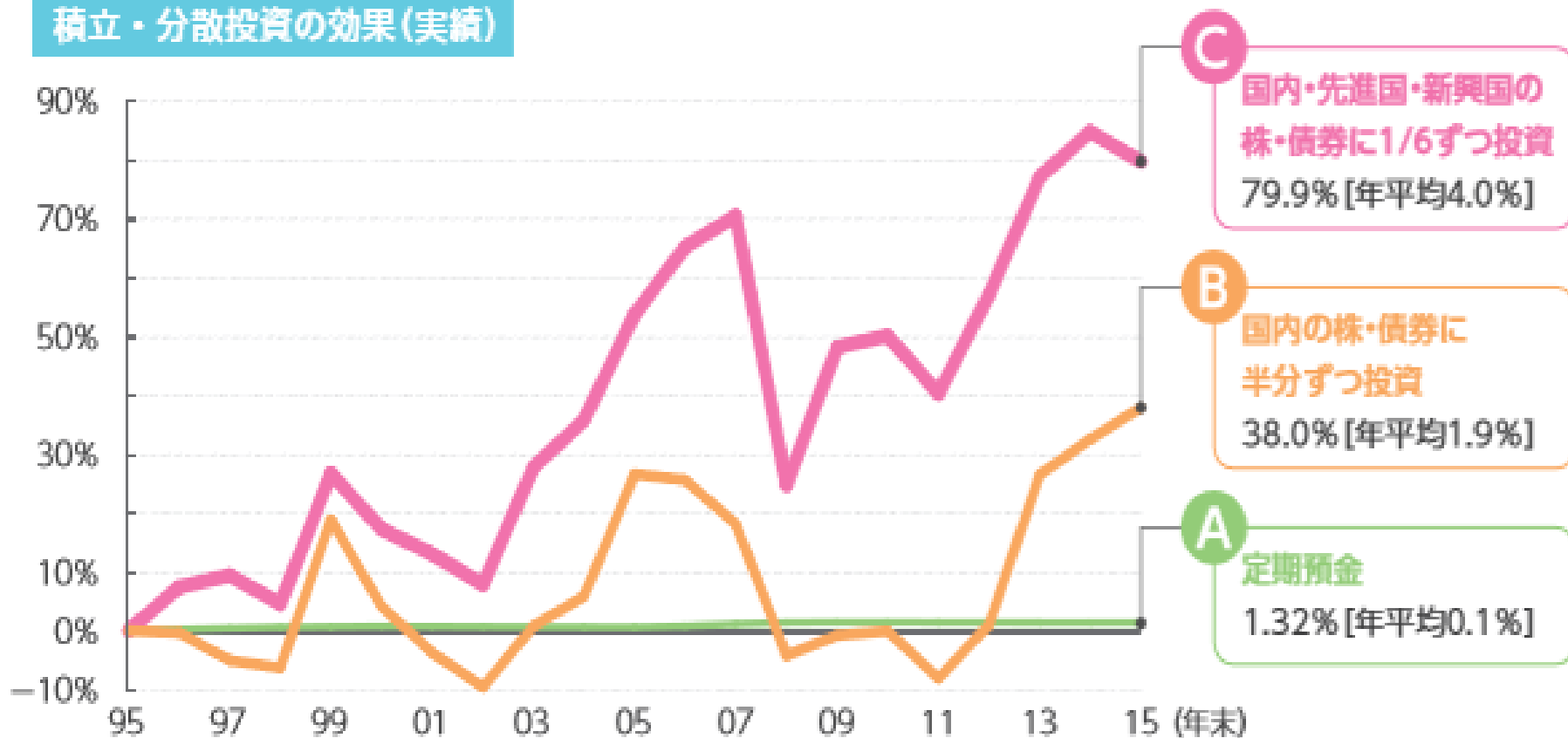
2. 積立

3. 分散



長期・積立・分散投資の効果

積立・分散投資の効果(実績)

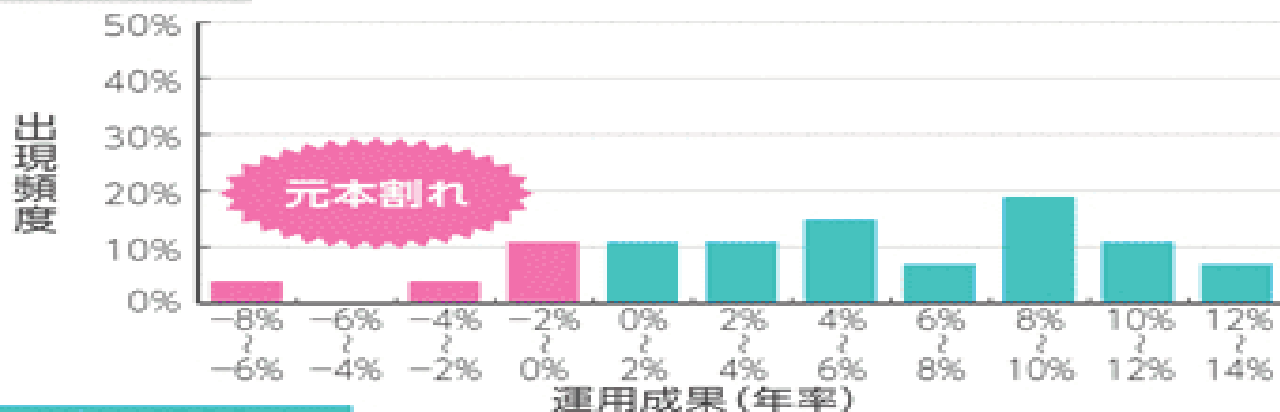


金融庁「つみたてNISA早わかりガイドブック」より

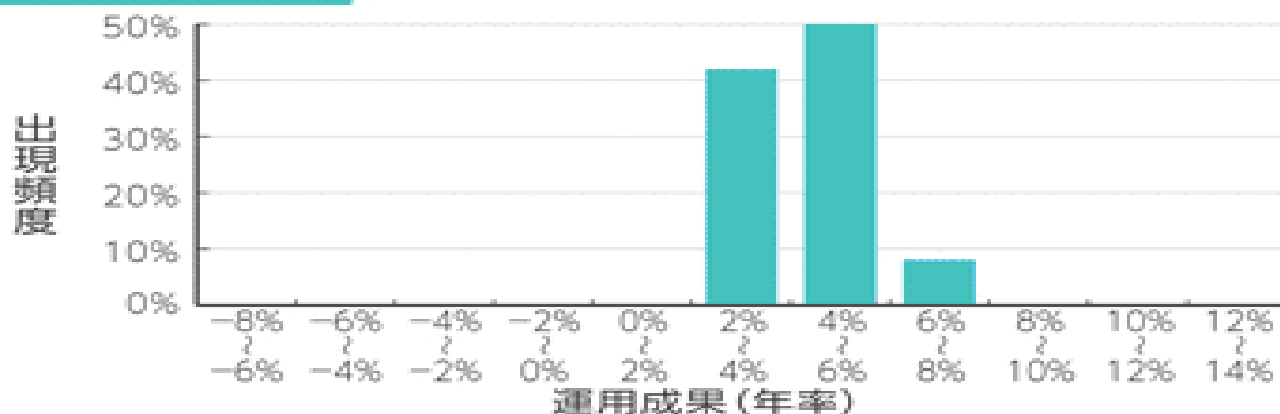
長期投資の効果

資産・地域を分散して積立投資を行った場合の運用成果の実績【保有期間別(5年,20年)】 1

保有期間5年

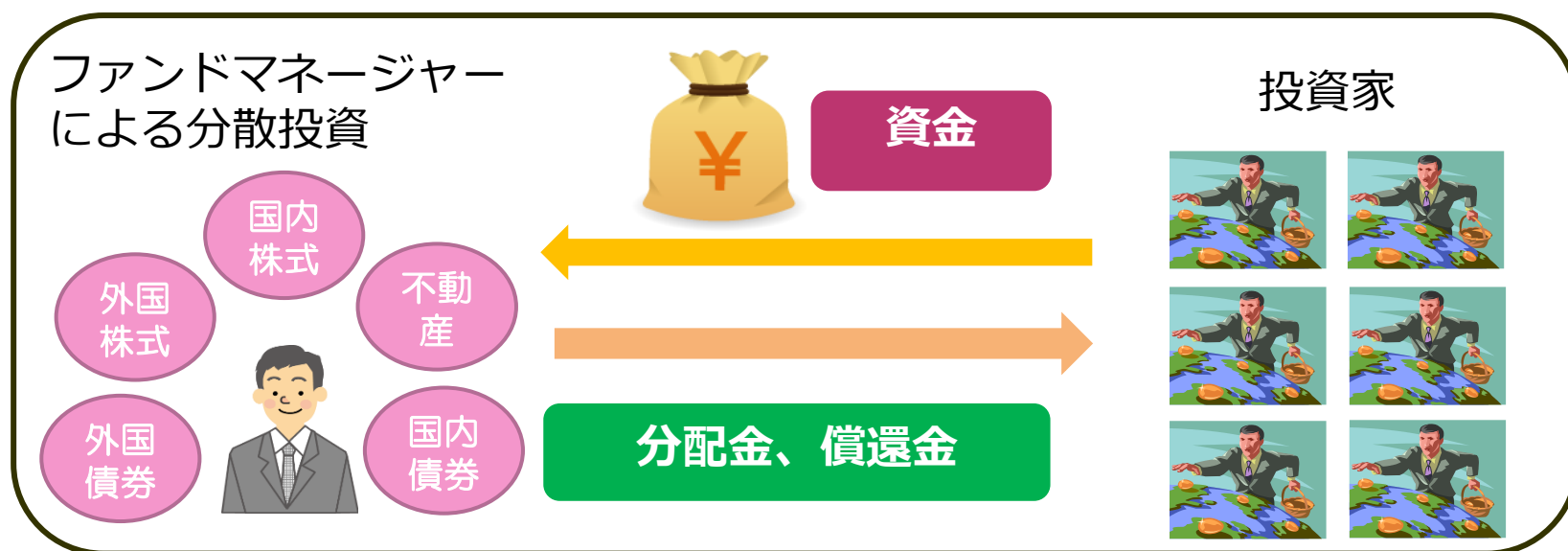


保有期間20年



〔出所〕金融庁作成

投資信託とは



様々な投資対象先

国内株式型

主な投資対象は日本の株式



主なリターン：値上がり益、配当

主なリスク：株価変動リスク 信用リスク

国内債券型

主な投資対象は日本の債券



主なリターン：金利収入

主なリスク：金利リスク 信用リスク

外国株式型

主な投資対象は外国の株式



主なリターン：値上がり益、配当、為替差益(円安時)

主なリスク：株価変動リスク 信用リスク 為替リスク

外国債券型

主な投資対象は外国の債券



主なリターン：金利収入、為替差益(円安時)

主なリスク：金利リスク 信用リスク 為替リスク

(参考) 投資信託選び 初心者でも始めやすいもの

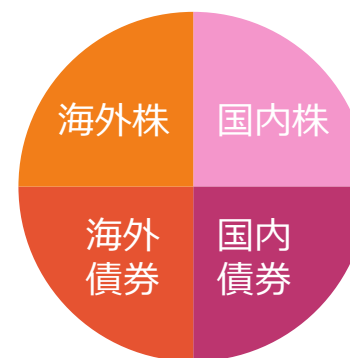
●インデックス型

TOPIX（東証株価指数）や日経平均255などの指数に連動する投資信託
コンピュータで自動運用されるため、アクティブ型に比べてコストが低い

●バランス型

国内外の株と債券の4つなど、異なるファンドに
バランスよく投資するタイプの投資信託

自分で金融商品を組み合わせるのは大変だけど
簡単に分散投資ができる



毎月3万円を20年間積み立てたら？
【元本】 3万円×12か月×20年 = 720万円

定期預金
(金利年0.002%)

+ 約**0.1万円**

約**720万円**

投資信託 (課税口座)
(平均利回り年3%※1)

+ 約**210万円**

約**930万円**

iDeCo (2万円)
つみたてNISA (1万円)
(平均利回り年3%※1)

+ 約**260万円**

約**980万円**

(会社員Aさんの例)
減税 + 約**97万円**

※1 年3%は仮定であり、将来の投資成果を
予測・保証するものではありません

※2 平均年収500万円扶養親族がない場合

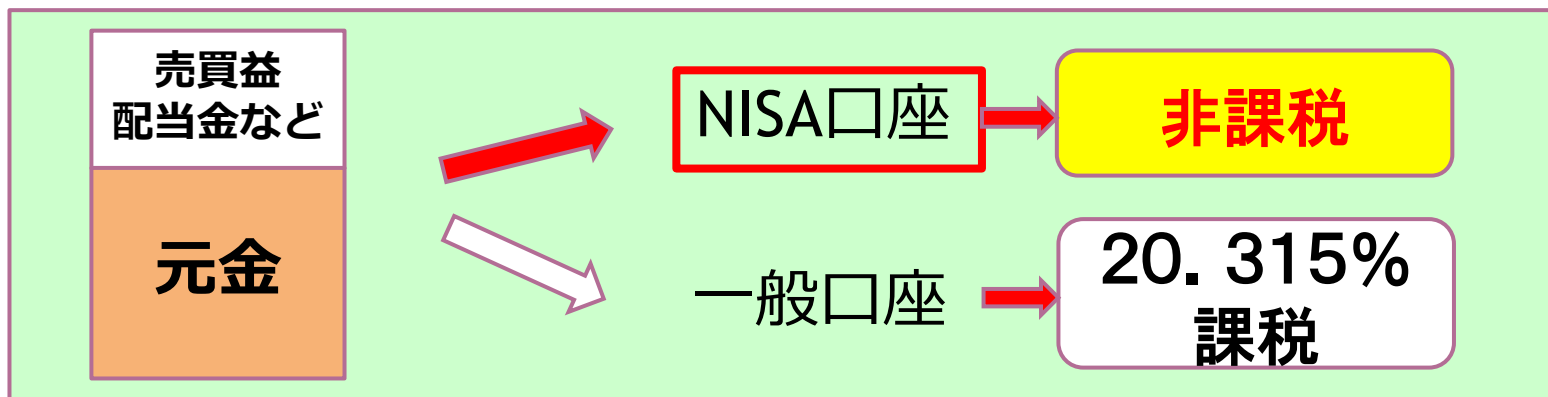
「NISA」とは？



「NISA」とは？

少額投資非課税制度

NISA口座の中で取引した場合、
利益に税金がかからない制度



選べる大人用の2タイプ（現行の制度は2023まで）

一般 NISA

非課税期間は5年

1年間でトータル
120万円まで投資
ができる

株式や投資信託な
ど

つみたて NISA

非課税期間は20年

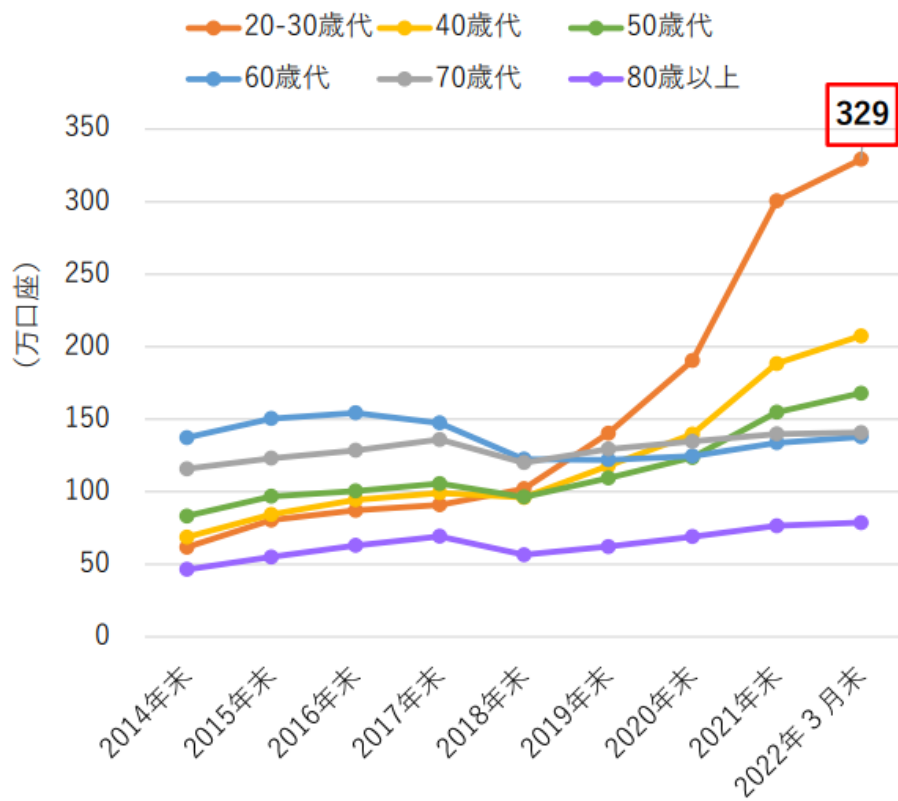
1年間でトータル40万円まで投資が可能

定期的に購入し、積み立てていく

低コストで長期投資にふさわしい商品しか
買えない

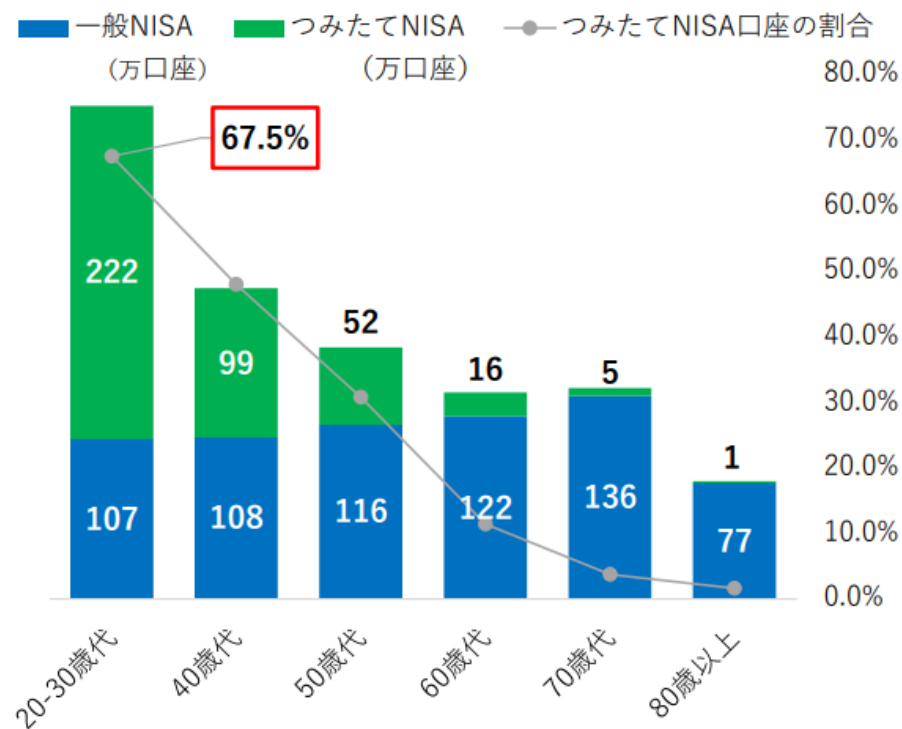
若い世代に人気の「NISA」

年代別NISA（一般・つみたて）口座数の推移



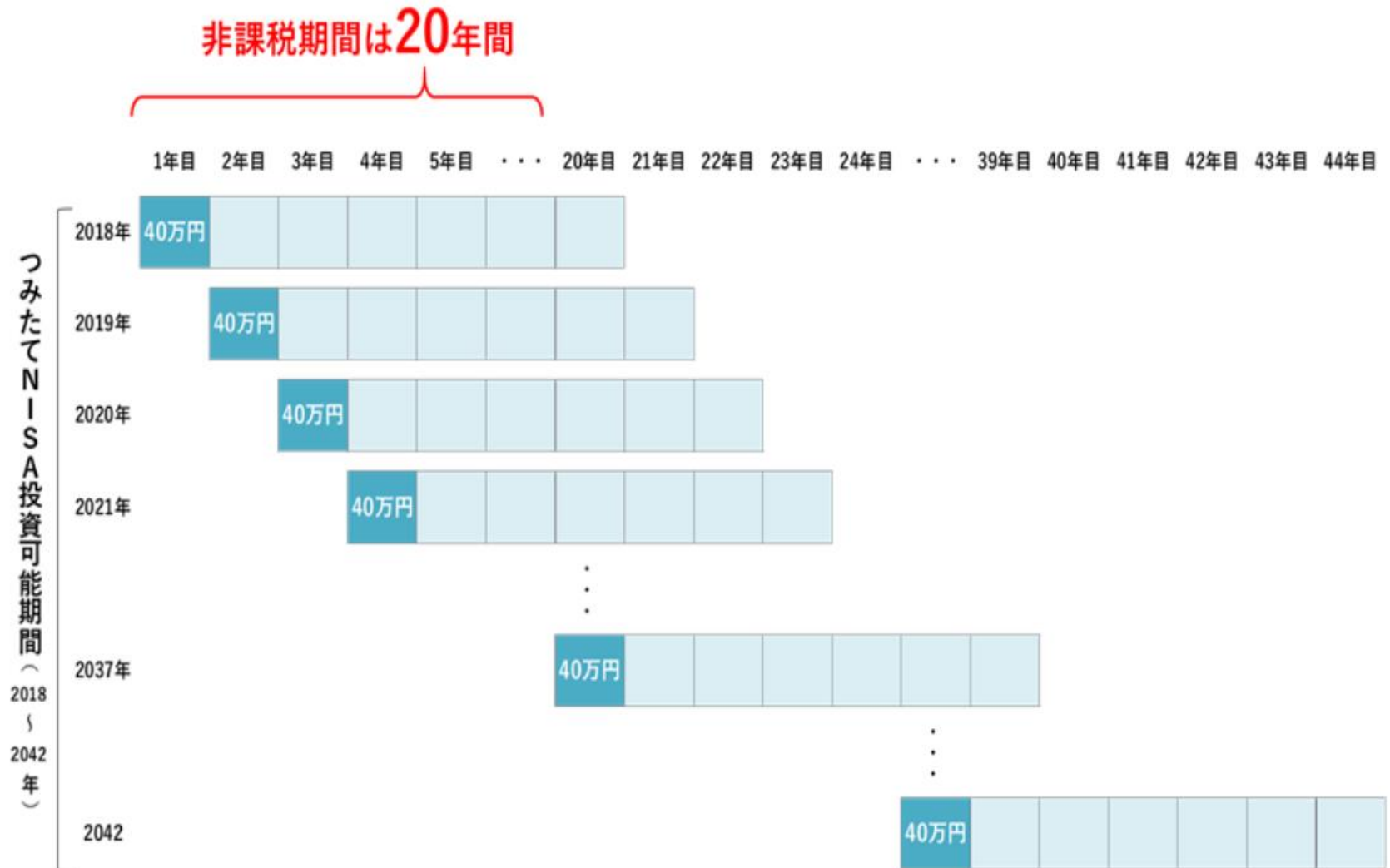
年代別NISA（一般・つみたて）口座数

(2022年3月末時点)



出典：日本証券業協会

(参考) 「つみたてNISA」のイメージ



出典：金融庁HP

(参考) NISAを利用する際の注意点

- すでに保有している株式などは移管できない
- 1年のうちに非課税枠を使い切れない場合、翌年に持ち越せない
- 途中で売ってしまったら、その分の再利用はできない
- 一般NISAとつみたてNISAの併用はできない
(1年ごとにどちらか選択)
- 課税口座との損益通算や損失の繰り越し控除はできない
- 非課税期間が終了し、延長する場合や、一般口座に移す場合にはその時の時価が取得価格とみなされる

「iDeCo」とは？



老後の自分年金「iDeCo」

iDeCo = 個人型確定拠出年金

(individual-type Defined Contribution pension plan)

- 個人が任意で加入できる公的年金の上乗せ制度
- 自分で決めた額を積み立てて運用し、60歳以降に受け取る
(最低5千円から。職業によって限度額が決まっている)
- NISA同様、利益が非課税
- 最大のメリットは、掛け金が全額控除となり
税金が優遇されるところ



「iDeCo」の注意点



- 運用は投資信託で行う
(定期預金など元本保証商品もあり) ⇒ 運用は自己責任
- 受け取り時も優遇制度がある ⇒ 出口で課税
- 最低5千円から積立可能 ⇒ 掛け金の変更は年に1回
- 口座管理料などがかかる ⇒ コストが低い金融機関を選ぶ
- 原則、60歳まで引き出せない ⇒ 無理のない掛け金で

(参考) 「iDeCo」 選びの3つのポイント

1. 金融機関をどこにするか

手数料は毎月かかるものなので、安いほうがベター

2. 掛け金をいくらにするか

拠出限度額に近いほど節税効果は高いが、60歳まで引き出せないことを考えて、無理のない額ではじめることが大切

3. 商品をどう選ぶか

「元本確保型」 = 預金、保険など元本割れしない商品

「インデックス型投資信託」 = 市場の平均値に連動させることを目標とした商品

「アクティブ型投資信託」 = インデックスを上回るリターンをあげることを
目標として運用されている商品

「バランス型投資信託」 = 国内外の株式と債券など、異なる
資産にバランスよく投資している商品



iDeCoと
つみたてNISA、
どちらがよいの？



「iDeCo」「つみたてNISA」の使い分け方

iDeCoがおすすめ！

- ▶ 「老後資金」が目的
- ▶ 現役時代にしっかり節税したい
- ▶ 元本確保型の商品も資産配分に加えたい
- ▶ 長期間じっくり運用したい

併用も
可能！

つみたてNISAがおすすめ！

- ▶ 60歳よりも前に必要となる資金を運用
- ▶ 年齢に関係なく非課税枠を最大限に活用したい
- ▶ 資産をいつでも引き出せる自由度がほしい
- ▶ 専業主婦（夫）など所得控除のメリットを得られない人

資産形成をはじめてみよう！



- ・ 少額から気軽にはじめられる

「100円から積立投資」「ポイント投資」などもある

- ・ 国の制度や支援も充実している

「NISA・つみたてNISA」「iDeCo」といった税金を優遇した制度を活用

- ・ 「サステナブルファイナンス」という考え方が広がっている

投資を通じて社会課題の解決を促し、持続可能な社会をつくるという考え方が広がっている

持続可能（サステナブル）な社会をつくることが巡り巡って私たちの利益にも繋がる